

令和 4 年 6 月 16 日現在

機関番号：24402

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18K09977

研究課題名(和文)女性の予防医療のためのシミュレーション医療教育プログラム開発-検診率向上を目指し

研究課題名(英文)Development of the simulation-based training program for women's preventive medicine.

研究代表者

森村 美奈 (MORIMURA, MINA)

大阪市立大学・大学院医学研究科・非常勤講師

研究者番号：00364000

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：“患者の気持ちに配慮した診察ができる医師の育成”を目指し、女性の心身を診るための、シミュレーション教育プログラムを作成した。そのために、医療面接・女性診察手技・分娩介助のシミュレーション研修を開催した。研修後に、受講者や指導者に対して、アンケートやディスカッションを行い、研修プログラムのブラッシュアップを行った。その結果、女性が、女性特有の診察を安心して受けられることを目標とする、研修プログラムを作成した。また、研修医や家庭医が、子宮がん検診の技法を学ぶためのWEBコンテンツを作成した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本において、子宮がん検診や産科医療を担う医師は、十分育成されているとは言えない。特に、産婦人科医や乳腺専門医が少ない地域では、安心・安全な女性の健康管理ができる医療環境づくりが望まれる。女性特有の愁訴に対する診療においては、身体のみならず心理背景や社会背景にも留意する必要がある。また、産婦人科医以外にも、地域の医療者が基本的な女性診察手技や分娩介助の技術を身に着けることで、女性の予防医療やヘルスケアの充実が図れる。この研究では、WEBコンテンツという学習方法で、多くの若手医療者や地域医療を担う医師が、安心・安全な女性診察手技を学ぶプログラムの作成をおこなった。

研究成果の概要(英文)：Aiming at "Training of the doctor who can do the medical examination which considered the patient's mentality". We created the simulation educational program for women's health care. Therefore, we held simulation training of medical interview, female medical examination and conduct of labor. We performed the investigation by questionnaires and interviews to trainees or instructors. Based on the result, we brushed up these training programs and we attained the following things. (1) We created the training program aiming at a physical examination comfortable for patients. (2) We created WEB contents for trainees and generalists to study the technique of a Pap smear.

研究分野：女性心身医学 医学教育 女性ヘルスケア

キーワード：女性心身医学 女性ヘルスケア 予防医療 医学教育 シミュレーション教育 子宮がん検診 乳がん検診 分娩介助

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本邦における産婦人科医師数は期待とおりには増えていない。女性医師の割合の増減や周産期医療からの離脱の問題 についても女性医療を支える医師の確保の上で、その動向が懸念される。

そのような産婦人科医療体制の中で、がん検診の受診率低迷の問題は、医療者のみならず一般市民もその対策の必要性に声を挙げ始めている。

一方で、女性のがん検診受診率が上がらない理由として「時間がない」が多く、その他の理由は、がん検診についての情報不足によるものもある、

欧米では、古くより家庭医や総合診療医の元で、婦人科がん検査やその啓蒙がなされてきており、日本でも必要性が報告されている。

女性患者の心情を思い図ることから、学生はもちろん産婦人科専攻を希望しない研修医に対しては、産婦人科や乳腺疾患にまつわる実践的学習を実臨床で行うことは容易ではない。そこで、当院では2007年度より、当院の1年目研修医に対し、婦人科・産科・乳腺診療にまつわる女性診察手技実習への参加を義務化し、2010年度からは2年目研修医をインストラクターに起用し“教えることで学ぶ”という機会を設け、この実習を経験した研修医は総合診療センターにおける女性診察を実臨床で経験している。

当院では2013年度より、5年生の臨床実習中に産科シミュレーション実習を行っている。総合診療センターにおける外来では、女性の産婦人科診察にも学生や研修医が参加し、女性に配慮した医療面接や一般的な身体診察を行い、臨床推論から検査項目や治療についての診療計画を立て、それらの医療行為のインフォームドコンセント、超音波検査の施行や内診見学、結果の説明を行っている。さらにその後のカンファレンスでのプレゼンテーションとディスカッションを行うことで、知識の確認と整理を行っている。また、前述の女性診察実習を受講した研修医は内診や細胞診検査も実臨床で経験している。

すべての医療者において、女性ホルモンの変化がもたらす身体的特徴を念頭に、女性の気持ちに配慮した診療を行うことが望まれる。2002年から学生の医療面接実習や模擬患者養成を行ってきた実績から、女性特有の Bio-psycho-social model を見据えた医療面接技術の向上を目指す。

2. 研究の目的

子宮頸がんの予防医療が進まない本邦では、婦人科領域がんの早期診断を行う体制は受診者のニーズを満たしているとは言えない。また、子宮がん検診や正常分娩管理を、欧米では家庭医がその多くを担っているのに対し、本邦ではほとんどを産婦人科の多忙な医師が担っている。

正確性・安全性に加え、患者の身体的特性や心理社会的背景への配慮が求められる女性生殖器や乳房の診療は、これらを専門としない医師にとって、実習する機会は少なく、初期対応ができる医師も限られるが、現行の OSCE 試験で採用されている手技と同等の基本的な手技である。

本邦における婦人科がん検診受診率の低迷や女性のヘルスケアを取り巻く問題を解決すべく、女性医療の初期対応ができる医療者を育成する教育プログラムを作成する。

3. 研究の方法

現行の学生および研修医に対する女性医療の教育内容を、受講者やインストラクターのアンケートをもとに評価し、多職種の意見も評価に取り入れ系統的な教育プログラムを作成する。

作成した教育プログラムを実行し、実習内容について、医師のみならず、いろいろな立場からの360度の評価や、そのプログラムによる受講者の達成度、能力の評価を行う。

教育プログラムの評価を、共同研究者以外の指導医や教育者の評価、外部施設の指導医の評価、模擬患者による評価、実習生による評価、その他の多職種指導者の評価をアンケートやインタビューによって行う

各アンケートやインタビュー内容を質的・量的に検討し、プログラムの改定を繰り返す。

4. 研究成果

日本において、子宮がん検診や産科医療を担う医師は、十分育成されているとは言えない。特に、産婦人科医や乳腺専門医が少ない地域では、安心・安全な女性の健康管理ができる医療環境づくりが望まれる。女性特有の愁訴に対する診療においては、身体のみならず心理背景や社会背景にも留意する必要がある。また、産婦人科医以外にも、地域の医療者が基本的な女性診察手技や分娩介助の技術を身に着けることで、女性の予防医療やヘルスケアの充実が図れる。この研究では、WEBコンテンツという学習方法で、多くの若手医療者や地域医療を担う医師が、安心・安全な女性診察手技を学ぶプログラムの作成をおこなった。

この研究の前段階として、我々は2007年度より、初期臨床研修医に対する、女性診察手技のシミュレーター教育プログラムを実行してきた。まず、以前の研修を踏まえて、2018年度に女性診察手技のシミュレーション研修のプログラムを再構築し、アンケート調査を行った。(発表演題名: 女性診察手技プログラムとそれが研修医に与える影響 第2報: 森村ら; 第33回 日本女性医学会 2018)

すべての医学生や研修医に必要な手技と総合診療医や家庭医が習得すべき手技を見極め、思いやりや社会性を持った心をもった医師を育成するプログラムを作成するために、アンケート調査や他施設や多職種での研修プログラムの実施とアンケート調査を行った。作成されたプログラムの実践性、その教育効果や施設に偏らない汎用性を検討し、作成された教育プログラムが、女性疾患の早期発見や初期対応ができる医療者の育成につながり、「安心・安全な女性診察手技」を到達目標としたプログラムであることを確認した。

そのうえで、多くの医療者が安心安全な子宮頸がん検診を行うための教育コンテンツを作成した。また、プライマリ・ケアを志す、多職種の医療者に対し、女性を診るために必要な基礎知識を伝えるための講演を行った(森村 美奈. 多様なセクシュアリティを支援できるプライマリ・ケア医になるために「女性の更年期障害」第34回 日本プライマリ・ケア連合学会 近畿地方会 2021.11)

本来の目的の一つである、子宮頸がん検診を担う医療者育成のためのコンテンツの作成はできたが、そのコンテンツに必要な、市民や受診者の意見を取り入れ、そのプログラムがもたらすアウトカムが、受診者が望む医師像や臨床手技をもつ医師の育成につながっているか否かを明らかにするための調査研究が、コロナ禍のためにできていない。また、分娩介助に関する、教育コンテンツについては、実証研究は行っているものの、やはり、コロナ禍の環境が妨げとなって、教育コンテンツの作成には至っていない。

引用文献

- 厚生労働省: 【第2回】 資料6(小児周産期)(mhlw.go.jp)
<https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-10801000-Iseikyoku-Soumuka/0000101499.pdf>
DL:2022/06/15
内閣府、がん対策に関する世論調査 2017年: がん対策に関する世論調査 - 内閣府 (gov-online.go.jp)
Austoker J. BMJ. 1994
(BMJ 1994; 309 doi: <https://doi.org/10.1136/bmj.309.6949.241> (Published 23 July 1994)DL:2022/06/15
鈴木真 月刊地域医学 30(11): 941-945 2016
森村ら. 日産婦雑誌会議録 2014
森村ら. 日本心療内科学会誌 18(3): 125-130 2014
森村美奈. 心身医学 55(8): 978-983 2015
森村美奈. 心身医学 58: 8, p 696-702 2018
森村美奈 中野朱美. 日本医事新報子宮頸がん検診. 日常診療お役立ちBOX 産科/日本医事新報, 2021.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 森村 美奈	4. 巻 58
2. 論文標題 女性診療の視点による心身医学教育	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 心身医学	6. 最初と最後の頁 696-702
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15064/jjpm.58.8_696	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 森村美奈
2. 発表標題 女性の心身に配慮した診察”に関する教育方法の検討
3. 学会等名 日本女性心身医学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森村 美奈, 島崎 郁司, 榎本 小弓, 笠井 真理, 古山 将康, 角 俊幸
2. 発表標題 女性診察手技実習プログラムとそれが研修医に与える影響【第2報】
3. 学会等名 第33回 日本女性医学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森村 美奈
2. 発表標題 特別講演2：女性の更年期障害.多様なセクシュアリティを支援できるプライマリ・ケア医になるために
3. 学会等名 第34回日本プライマリ・ケア連合学会 近畿地方会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

WEBコンテンツ 子宮頸がん検診. 日常診療お役立ちBOX 産科/婦人科編. 井上真智子, 柴田綾子, 監. (https://www.jmedj.co.jp/premium/ogb2/) 執筆: 森村美奈 中野朱美 発行年: 2021年 発行: 日本医事新報

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	首藤 太一 (Shutou Taichi) (20295687)	大阪市立大学・大学院医学研究科・教授 (24402)	
研究分担者	竹本 恭彦 (Takemoto Yasuhiko) (20364002)	大阪市立大学・大学院医学研究科・客員教授 (24402)	
研究分担者	中野 朱美 (Nakano Akemi) (00599300)	大阪市立大学・大学院医学研究科・講師 (24402)	
研究分担者	栩野 吉弘 (Tochino Yoshihiro) (90382051)	大阪市立大学・大学院医学研究科・准教授 (24402)	
研究分担者	森崎 珠実 (Morisaki Tamami) (90743047)	大阪市立大学・大学院医学研究科・病院講師 (24402)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	衣畑 成紀 (Kinuhata Shigeki) (30534622)	大阪市立大学・大学院医学研究科・非常勤講師 (24402)	
研究分担者	小林 正宜 (Kobayashi Masanori) (80794065)	大阪市立大学・大学院医学研究科・非常勤講師 (24402)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関